

リニアの借金は「究極の相互扶助」?? 組合員は我慢しろ!? ユニオン松尾委員長の発言!?

旬刊「ACCESS」2012年新春合併号（P14）で、JR東海ユニオン松尾委員長が威勢良く新年の決意を語っています。「JR東海は素晴らしい会社です。…わが社は25年を経てなおこれから旬を迎えるイメージです。リニア中央新幹線計画が進行中ですし、…」 「15年先の会社の柱石を今働いてる者が負担していくことは、将来負担をするという意味では年金と一緒に、『究極の相互扶助』と言えるでしょう」などなど、会社の意思を代弁しています。

要するに、「リニアができれば、より経営が軌道に乗る」「リニアの建設費は、年金と同様、社員が助け合って借金を返済していかなければならない」と言いたいのでしょうか。

しかし、夢のようなことばかり語っていても、現実、リニア建設費や長期債務返済のことは一切無言です。年金は、増税や給付見直しなどで国が何とか手を打とうとしていますが、企業の債務は年金のように何とかなるものなのでしょうか？ 一歩間違えれば経営破綻です。

さらに、松尾委員長は「現行の安全水準・労働条件の維持を前提としつつ、会社としての将来責任を果たしていく計画…理解を組合員はする必要があります」



大会以降、組織撤退もあれば加入もありました。私達の活動に満足できない組合員が、結果的に脱退し、他労組に代わる。それは当人にとって、不幸な選択であることは言うまでもありません。我々の活動の未熟さや至らなさは、組織の中で解決できるものでなければなりません。企業1組合にかつた時に備えて、なおこの組合員の不満も受け止めてあげられるような組織でなければなりません。そして、組合員同士がお互い

に無関心であっては困ります。もっと人に関心を持つということとを徹底したいと思います。
【JR発足25年という節目に思ふことはありますか】
JR東海は素晴らしい会社です。会社は20年、30年経つと盛りを過ぎるものですが、わが社は25年を経てなおこれから旬を迎えるイメージです。リニア中央新幹線計画が進行中ですし、新幹線の技術開発もどまることがあります。また伸びる会社で、我々を将来に向けて頑張ろうという気持ちにさせてくれます。

一方で、緊張感も当然あります。名古屋開業に要する工費は5兆円と言われ、新幹線資産の買い取りと同様、大変な買い物になります。しかも、会社は中間駅建設にかかると費用も全額負担する方針を明らかにしました。それらは経営体力からして可能としても、組合員はその重みを感じています。15年先の会社の柱石を今働いている者が負担していくことは、将来負担をするという意味では年金と一緒に、『究極の相互扶助』と言えるでしょう。現行の安全水準・労働条件の維持を前提としつつ、会社としての将来責任を果たしていく計画ですので、そこに対する理解を組合員はする必要があります。「5兆円も捻出できるのなら、労働者に分配せよ」という声が上がるとは思いますが、そこは責任組合として、同じく将来の組合員への責任も果たす姿勢が必要でしょう。もっとも、今の賃上げを放棄するものではありません。我々にふさわしい労働条件は今後も求め続けていく考えです。

と言っています。そもそも、莫大な投資の陰には、徹底的な経費削減があることは誰でも分かるはずです。労働条件や福利厚生は真っ先に切り捨てられます。「松尾委員長は組合員にリニアのための労働条件切り捨てには文句を言わせない」と読み取れます。

これで労働組合のリーダーを名乗る資格はあるのでしょうか？ こんなリーダーのために組合費を払い続けることに疑問は感じませんか。

**工事費5兆円、中間駅全額負担！
未来に責任は持てるのか！**